

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872100391
法人名	社会福祉法人 新世会
事業所名	グループホーム いくり苑
所在地 (電話番号)	茨城県ひたちなか市磯崎町4555-1 (電話)029-264-2880

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年12月16日	評価確定日	平成20年4月9日

## 【情報提供票より】(19年11月21日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 14 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 6.6 人	

## (2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設/単独	<input type="checkbox"/> 新築/改築
建物構造	平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	12,200 円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 200/日 円
	または1日当たり	1,100 円	

## (4)利用者の概要

利用者人数	27 名	男性 2 名	女性 25 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	13 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 87.2 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	恵愛小林クリニック	アイビークリニック	かむかむ歯科
---------	-----------	-----------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは非常に閑静で過ごしやすい立地条件に恵まれており、敷地内では太平洋から吹く風を穏やかに感じることができる。 また、同法人の関連事業所が多数、ホームに隣接しており、利用者の実状に合わせて臨機応変かつ調和的なサービスが提供できる多機能性を有し、機能的な連携が図られている。
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の内容は職員全体で目を通して、それをもとに改善にむけた話し合いを行い、具体的な対応を見出して、より良いサービスの提供にむけた取り組みを順々に推し進めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	より良い福祉サービスの提供にむけた取り組みを推し進められるよう、職員全体で日頃のケアを振り返る機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会役員、民生委員、市町村職員等々、多くの方々の参加のもと、運営推進会議が実施されている。外部評価の結果なども議題としてあがっている。市町村で行なう各種会議には積極的に参加し、連携を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に広報誌を発行し、利用者の日常の様子等を家族に伝えている。また、月1回程度の頻度で、直接利用者の状況を口頭で家族に伝えている。苦情受付ノートをホームの玄関に設置し、利用者の家族等からの意見、要望、不満、苦情を受け付けている。また、それ以外にも、その都度口頭にて聴取している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣で催される各種行事(夏祭り、クリスマスパーティ、敬老会、自治会行事等)に常時参加して、積極的に地域交流が図られている。自治会にも加入し、近隣小中学校との行き来もある。また、多数のボランティアがホームに訪れている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者ひとりひとりにあった生活の営み方(ペース)を重視し、それを具体的なケアにおいて実践することを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関やリビングに大きく、かつ違和感がないように理念が掲示・公開されている。常日頃から、そして誰もがそれを目にすることによって、理念に即したケアが決まっていかなないように図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣で催される各種行事(夏祭り、クリスマスパーティ、敬老会、自治会行事等)に常時参加して、積極的な地域交流が図られている。自治会にも加入し、近隣小中学校との行き来もある。また、多数のボランティアがホームを訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の内容は職員全体で目を通して。それをもとに改善にむけた話し合いを行い、具体的な対応を見出して、より良いサービスの提供にむけた取り組みを順々に推し進めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員、民生委員、市町村職員等々、多くの方々の参加のもと、運営推進会議が実施されている。外部評価の結果なども議題としてあがっている。		運営推進会議の参加者名、実施時間および議事録等の記録の整備を期待したい。また、運営推進会議の実施は決して受身で執り行うものではなく、ホーム側から行政や地域等へ発信する機会であり方法として位置づけ、より有効的な活用となるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村で行なう各種会議には積極的に参加し、連携を図っている。また、ホームが発行する広報誌等を用いて、情報提供・情報発信に心がけている。認知症ケアに関する相談など、市町村からホームに依頼があり対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に広報誌を発行し、利用者の日常の様子等を家族に伝えている。また、月1回程の頻度で、直接利用者の状況を口頭で家族に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付ノートをホームの玄関に設置し、利用者の家族等からの意見、要望、不満、苦情を受け付けている。また、それ以外にも、その都度口頭にて聴取している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の事例はない。また、リーダー以上であれば退職の事例がない。今後、そのような事例が生じた場合は、利用者の不穏を招いたり、ストレスの原因とならないように十分な説明を行い、円滑に人事が図れるように配慮する体制がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、講師を招いての勉強会、職員への各種研修の情報収集と案内等、職員教育および育成に努めている。研修参加職員は、その内容を他の職員に申し送り、職員で共有する仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内事業所および関連事業所と交流、連携をとっている。勉強会や懇親会を企画、実施し、交流を通じて職員育成や、福祉サービスの質の向上を図っている。		交流、連携をとっている事業者が偏っている傾向があり、今後は、地域性を重視したネットワークの構築と、そこでの交流、連携を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者に対しすぐさま入所をすすめるのではなく、各種福祉サービスの利用を十分に検討したり、あるいは、ホームの環境に馴染んで本当に利用したいと思えるかどうかをしっかりと考える時間を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体の福祉サービスを念頭に、可能な限り本人の視点に基づき、共に支え合う関係の構築を心がけている。職員を、共に生きる存在であると利用者を受け入れてもらうようなかかわりを実践している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のあらゆる場面において利用者の思いや意向を把握できるよう心がけている。ひとりひとりの利用者の思いの違いに合わせたケアを提供するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝のミーティング時に、職員間で利用者ひとりひとりの情報収集および整理を行い、利用者主体の生活を支えるための介護計画の策定を行なっている。また、月1回のケースカンファレンスの中で、本人や家族の直接的な意見や希望を確認しつつ、介護計画の緻密性を高めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、利用者の状態変化が生じた時などを中心に随時行なっている。基本的には3ヶ月に1回以上である。その際には、本人や家族との話し合いの場や連絡を取って、計画の適時適切な変更を努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者主体の生活を支えるため、例えば食事時間を利用者に合わせたり、面会時間を家族の都合や希望に合わせるなど、柔軟な対応をとっている。また、隣接機関や近隣の福祉サービス事業所と連携をとり、利用者の要望にあわせられる体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに協力的なかかりつけ医が、24時間体制で利用者の状態に対応している。往診も月2回、実施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、基本的に看取りケアの実施は行なわない(但し、利用者の希望、家族の希望を重視しているため、事例はある)。もし、今後看取りが必要な状態となった利用者が生じた場合、基本的には通所でのケアを提供していく予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルを作成し、ホーム内に掲示、公開している。職員は研修等を通じて利用者のプライバシー保護を熟知し、徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりの生活の営み方、そのペースを尊重し、画一的ではない個別的ケアの実践を基本としている。本人の過ごしたい好きな場所、希望する役割を把握し、それを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と職員が共になって準備し、作っている。季節や行事にあわせたメニューを設定し、生活の楽しみとしての位置づけを明確にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後、利用者の好きな時間に入浴をいただいている。入浴の有無も、時間も、準備も、一人ひとりの利用者に合わせて支援する体制ができている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム敷地内の畑づくりや毎日の家事など、利用者が昔から馴染んでいる生活作業等を把握し、それを基本に各個人ごとに役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。また、いけばな教室や絵手紙教室なども催し、参加を促して、生きがい支援の充実をはかっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は週1回以上の頻度で実施している。散歩散策、買い物のみならず、中学校の文化祭への参加などがある。今度も、さらなる外出レパトリーの拡大を図っているところである。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしてなく、出入り自由となっている。ただし、防犯上の理由により夜間のみ施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練等を年2回実施している。自治会に加入しているため、災害時には地域の協力・連携が見込まれている。	○	災害時用の各種備品、特に、食料および飲料水の備蓄をどのようにとらえ、どのように準備していくか、再検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量および水分摂取量は、毎食、把握されている。管理栄養士の指導のもと、利用者の実状に合わせた栄養摂取支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、利用者の昔からの馴染みのある置物が飾られている。また、四季の草花や飾り物によって、季節感ある雰囲気が自然対で作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は居心地が良いように、基本的に利用者ご本人の持参物(昔から馴染んでいる家具等)を積極的に用いている。特にそういったものがない方に対しては、ホーム側で飾り物などを提案、提供している。		